



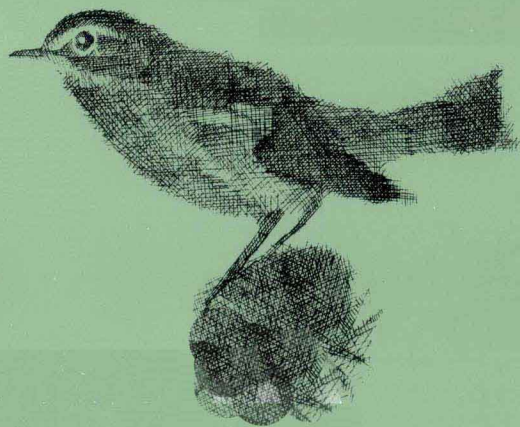
森の小さな家



金森三千雄・作 北川健次・画

森の小さな家

北川健次・画
金森三千雄・作



913 金森三千雄

森の小さな家

金の星社 1987

182p. 20cm

(文学の扉 35)

●森の小さな家

初版発行 一九八七年十一月◎

作者／金森三千雄

画家／北川健次

発行所／株式会社 金の星社

〒111・東京都台東区小島一―四―三

電話・東京(〇三) 八六一―一八六一(代表)

振替・東京〇―六四六七八

印刷／平河工業社

製本／東京美術紙工

乱丁落丁本は、二面倒ですが小社営業部宛ご送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

ISBN4-323-00925-9

森の小さな家

金森三千雄・作

北川健次・画



第一章 楽しい日び 5

誕生日／潮干狩り／かたぐるま／やっぱり海は青かった／
サンタクロースがお酒を飲みすぎた／わたしがお空を飛べ
たのも／赤いソリに乗って

第二章 父の病氣 29

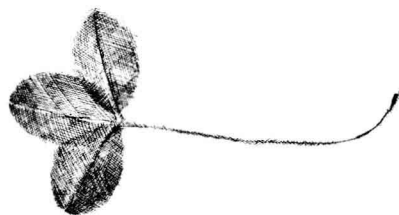
父は庭で／じっとしている／父の手／ある朝 死んでしま
いたいと／父の会社の人たち

第三章 悲しみの深さを 45

父の笑い声があった頃／バラがさいたよ／悲しみの深さを
また 会えるのに／気が立つということ／石になっちゃう
ぞ／先生に相談

第四章 森へ引越し 67

父に似た手が／キーホルダー／わたしだって甘えたい／
空を見あげることが多くなった／遠くで／変色した父



第五章 森での生活 89

朝の光が／おじさん／ごめんね／紙飛行機よ／透明な羽根
があつた／水の精／笹舟にのせてながそう／ほんのちよつ
と甘えたい／森はさびしいから／父の日記から出てきたも
の／撃たれたうさぎと／ふたりの男

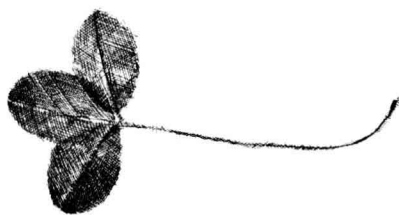
第六章 月の光のなかを 123

わたしたちをだれかが／学校には校歌家には家族の歌／
いい花ですね／星から人が降りて／月の光の雨のなかを
風の色がいい／働きものの音／こおろぎが鳴く夜／雪の子
のひとりごと／妹とわたしがみたものは

第七章 笑うことつて素晴らしい 151

真夜中／みかんひとつ／たんぼぼすいしや／春のなかに／
手を取り合つて／母のホット・ケーキ／笑つた父／眠れな
い夜には／スケッチにでかけて

あとがき 180



第一章
楽しい日び



シロチドリ・イソシギ・コガモ。いろいろな種類の鳥が、干潟^{ひがた}に舞^まいおりてきます。

そこでは鳥も、植物も、昆虫^{こんちゅう}も、海水も、おたがいに助けあつて生きているように見えます。

わたしたちは、干潟から数百メートルはなれたところに、住んでいます。

春には、潮干狩^{しおひ}りができます。夏には、近くの遊園地のプールで泳ぎ、そのあときまつて、大観覧車^{だいかんらんしゃ}に乗りました。

秋には、菊人形^{きくにんぎょう}が並べられ、よく父や母のともだちが訪^{たず}ねてきました。冬は、海風であたたかく、とてもおだやか

で大好きな町。

家族は、父と母と妹とわたしの四人です。

父は、週刊誌を発行している東京の出版社に勤めています。母は、絵を習ったり、バレーボールのチームに入っています。楽しんでいます。

妹のあやは、小学校三年生で、わたしは、六年生です。歩いて二十分ほどのところにある小学校に通っています。

父は、いそがしくても、休日には、わたしたちと、よく遊んでくれました。



誕生日たんじょうび

父の帰りが遅いおそ

「もう少し 待ちましょう」

母が いった

今日の ケーキはきょう

どんなのかしら

「おそいねー まだかなー」

妹は つぶやいた

ゆうべ おふろからでて 父は

「あしたこそ 早く帰ってくるよ」

と いったのに

やっぱり 遅い

「仕事かな？」

なにか おいまいごとをしようと

待っていても

かならず 遅く帰ってくる父

小学校の入学の日も

とつぜんの出張で

翌日 帰ってきたし

父親参観日にも

けつきよく きてくれなかった

考えてみると

わたしの 誕生日に

父が いたのは

一度だけ

父は いつも いなかった いそがしかった

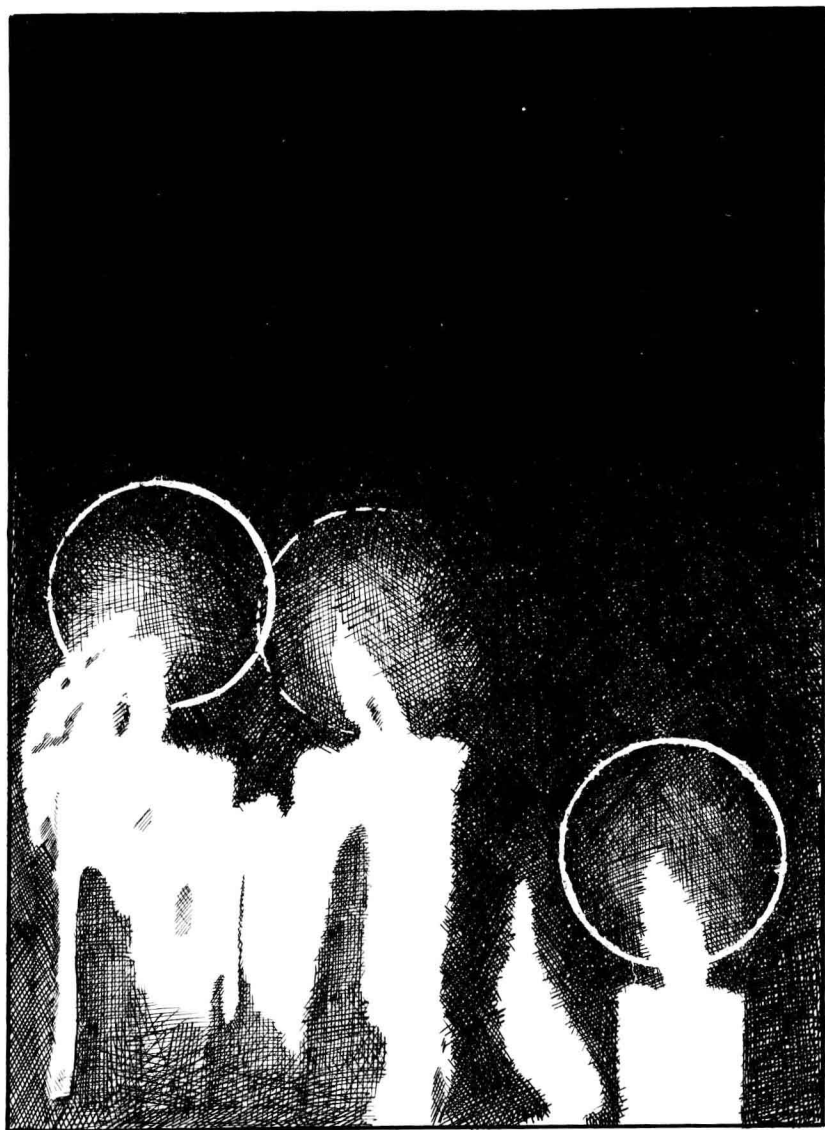
わたしの 十二本の口ウソクさん

父に伝えて 今夜だけは

早く 帰って と

外は

とても 風が 強いです



潮干狩りしおひが

海うみの中心へ

波も水もなみ

呼びよせられていくよ

たくさんの貝ひろいの人が

潮風のなかへかけていく

シャベルを

くまで
熊手を

バケツをもつて

それぞれ

はまは
浜を堀り

あさりをみつけだす

あとから

父と母が

手をふり やってくる

妹も わたしも

手をあげ

おもいきりふる

あきりを 天にさしあげた

収穫しゆうかくの合図だ

いろんな家族が はしゃいでいる

わたしたちの家族も はずんでいる

逆光ぎやつこうでもかまわない

そこで 写真を

はい パチリ